



小倉城 新能

たねのついで

2022

新作能
「江戸櫻 小倉城」
狂言「隠狸」
伴舞「邯鄲」

山本章弘

野村万禄

森本哲郎



令和4年
10月1日(土)

開場:午後4時 開演:午後5時
(終了予定:午後7時過ぎ)

会場:小倉城天守閣前広場
(北九州市小倉北区城内2番1号)

入場料 **5,500円(全席自由)**

[新作能「江戸櫻 小倉城」の詞章、小倉城の歴史等を掲載したパンフレット付き]

※520席限定のためチケットはお早めにお求めください。
(晴天決定の場合、チケットを追加販売する可能性があります。)

入場券販売場所

- ・ローソンチケット [Lコード 81549]
WEB(<https://l-tike.com/>)またはローソン、ミニストップにて販売
- ・チケットぴあ [Pコード 514-521]
WEB(<https://t.pia.jp/>)またはセブンイレブンにて販売

お問い合わせ・お申し込み

森本能舞台 TEL:092-711-8888 FAX:092-711-8181
Mail:m-nohbutai@hor.bbiq.jp

オンラインでのお申込はこちら▶



ご挨拶 北橋 健治 (北九州市長)
解説 森本 哲郎 (能楽師)

郡 郢 山本章 弘

仕舞

地謡 小倉 要二郎
久保 誠一郎
今村 一夫
井内 政徳

隠狸

太郎冠者 野村 万緑

狂言

主人 小笠原 由嗣

後見 吉良 博靖

〈薪能火入れ式〉

新作能

女小笠原忠幹の妻
枝垂桜の精 森本 哲郎

江戸櫻 小倉城

小倉城下の者 原

大

大鼓 白坂 保行 太鼓 田中 一彦
小鼓 飯富 章宏 笛 相原 彦達

島村志津摩の子孫 吉住 講

後見 山本章 弘
赤瀬 雅則

地謡 山下 あさの
木月 晶子 前田 和子
菊本 美貴 菊本 澄子

終了予定午後七時過ぎ

【あらすじ】

仕舞 郡郢 (かんたん)

男は郡郢の里を訪れ不思議な枕で寝る。そして夢の中で長い間の栄華を味わうが、やがて夢は覚め呆然となるが悟りをひらく。

狂言 隠狸 (かくしだぬき)

主人は、太郎冠者が狸を上手に獲ると聞き尋ねるが、太郎冠者は狸など獲ったことはないと言え答える。すでに振舞いの客を招いてある主人は狸を市で買ってくるよう命ずる。実は、太郎冠者は狸とりの名人で、昨夜も大狸を獲ったので、主人に内緒で市へ売りに出かけるが、主人が先回りして市で待っていたので、あわてて狸を腰の後ろに隠す。主人は太郎冠者に酒を飲ませ舞を舞わせ、狸とりを白状させようとしますが、さて、結末は？

新作能 江戸桜 小倉城 (えどざくら こくらじょう)

〔前半〕時は昭和三十四年、小倉城天守閣が再建された直後。小倉城下の男が紫川の桜を眺め川辺で休息していると、女が現れ、吉野桜が主流の城内において、昔の枝垂桜を偲ぶ。男が尋ねると、女は、江戸時代、小倉城が自焼する前は、他の城では戦の燃料となる為、植えることを禁じられていた桜が、小倉城では許され、当時は枝垂桜が盛んであった事などを語る。やがて女は、自分は、長州の戦の途中で病死した為、士気が下がることを案じて事実を隠された小倉藩九代目当主 小笠原忠幹の妻の幽霊であると語り、今が盛りの吉野桜の中に僅かに残る枝垂桜に姿を消す。(中入)

〔間狂言〕小倉藩軍を率いて戦った島村志津摩の子孫が登場し、高杉晋作率いる長州藩奇兵隊との戦鬪を物語る。

〔後半〕やがて空から音楽が聞こえ、四人の吉野桜の精が現れ、新しく再建された美しい小倉城を背景に美しく舞う。そこへ、今は枝垂桜の精となった忠幹の妻が現れ、吉野桜の精と共にこれからの小倉城・北九州を守護する誓いを語る。

作・節附・型附 森本 哲郎
協力 飯富 章宏
日比野 利信 (北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員)
補佐 山本章 弘